

近年の交通関連業務の主要実績

(平成 22 年6月4日／(株)国際開発コンサルタンツ)

1. 交通マスタープラン（総合交通体系調査）	1
2. 都市計画道路の再検討、見直し（長期未着手）、整備プログラム等	1
3. 渋滞対策、道路整備効果解析等	2
4. バス交通・コミュニティバス関連・地域公共交通会議・地域公共交通連携計画等	6
5. BRT、連節バス関連	5
6. 交通ミクロシミュレーション関連	10
7. 交通社会実験	12
8. 省エネルギー・CO ₂ 削減対策関連	12

1. 交通マスタープラン（総合交通体系調査）

年度	発注者	業務名	業務概要
H3～ H6	鎌倉市 (神奈川県)	鎌倉市交通マスタープラン	S61～S63年度に策定した、都市計画道路再検討結果を基に、市内の平日・休日交通実態調査による市内交通の実態を把握した上で、抜本的な道路網整備が困難な鎌倉市の交通体系のあり方を、旧鎌倉地域の保全の観点から計画した。
H11 ～ H13	千葉県 (財)千葉県まちづくり公社)	千葉県総合都市交通体系調査(マスタープラン調査)	将来の交通需要に対応するとともに、新たな県土構造を構築するための県内幹線道路網を計画
H14 ～ H16	多摩市 (東京都)	多摩市交通マスタープラン策定業務	高齢化や環境共生等に対応し、ユニバーサルデザインの観点から公共交通を主体とした都市交通のあり方をマスタープランとして検討
H15 ～ H17	逗子市 (神奈川県)	逗子市交通計画	高齢社会、環境負荷の軽減等の社会経済状況の変化に対応した総合交通体系調査であり、将来のあるべき交通体系を示すとともに、短期的に取り組む戦略プランを検討
H20 ～ H21	平塚市 (神奈川県)	平塚市総合交通計画策定業務委託	道路網、鉄道網、バス網、自転車の利用促進や各交通機関の適切な役割分担やなど、自家用車に過度に依存しない都市づくりに向けた戦略的な総合交通計画の検討を行った。

2. 都市計画道路の再検討、見直し（長期未着手）、整備プログラム等

年度	発注者	業務名	業務概要
H18 ～ H19	千葉市	都市計画道路の見直し検証調査業務委託	都市計画道路の見直し方針（基準づくり）、H10年のパーソントリップ調査に基づく将来交通需要に対応した、長期未着手路線の検討
H18 ～ H19	大和市 (神奈川県)	道路交通体系見直し調査委託	H10年のパーソントリップ調査に基づく将来交通需要に対応した、構想路線の整備方針、都市計画道路網の再検討、長期未着手路線の検討
H19 ～ H20	藤沢市 (神奈川県)	都市計画道路見直し検討業務委託	H10年のパーソントリップ調査に基づく将来交通需要に対応した、長期未着手路線の検討
H20 ～ H21	三浦市 (神奈川県)	都市計画道路見直し業務委託	長期未着手路線を検証し、平成22年2月に都市計画道路7路線を廃止、そのための都市計画変更図書の作成
H20 ～ H21	平塚市 (神奈川県)	平塚市総合交通計画策定業務委託	総合交通計画の策定に合わせ、交通ネットワーク体系に応じた都市計画道路の長期未着手路線の検討

●都市計画道路再検討要綱・マニュアル

- ・神奈川県（昭和55～56年度）、愛知県（昭和60～62年度）、千葉県（昭和62年度）

●都市計画道路再検討業務

- ・神奈川県：鎌倉市（H3～H6）、藤沢市（H3～H4、H13）、厚木市（H13～H14）、鎌倉市（H3～H6）、秦野市（H6～H7）、厚木市（H6、H13～H14）、茅ヶ崎市（H3）、三浦市（H4）、座間市（H12～H13）、寒川町（H13）
- ・埼玉県：新座市（H12～H13）、桶川市（H15～H16）、加須市（H17）、本庄市（H17～H18）
- ・愛知県：名古屋市（H3～H4）、津島市（H5～H6）、刈谷市（H9）、安城市（H6、H10）、犬山市（H8）、稲沢市（H4～H5）、東海市（H10）、知多市（H3）、尾張旭市（H8）、日進市（H10）、長久手町（H9）、扶桑町（H9～H10）

●道路整備プログラム

- ・千葉県(財)千葉県まちづくり公社（H13～H14）
- ・神奈川県厚木市（H18～H19）：第6次道路整備五箇年計画策定業務（高規格道路整備に合わせた道路整備）

3. 渋滞対策・道路整備効果解析等

(1/3) (※印は費用便益分析を行ったもの)

年度	発注者	業務名	業務概要
H5	建設省相武国道工事事務所	南多摩地域における交通渋滞対策検討	南多摩地域における交通の現状と特性を交通センサス及びPT調査結果によって解析するとともに、現地における渋滞の現状把握と交通事業者、警察、消防、地域住民、教育委員会等の多様な道路利用者へのヒアリングを行うことによって、渋滞の要因を解析。 また、渋滞は道路利用者によって生じることから、これらの渋滞要因を整理して各道路利用者への道路及び交通の適正な利用を働きかけた。
H7	建設省横浜国道工事事務所	管内交通流動調査	① 国道357号整備に伴う交通流動の変化を解析して、整備の効果を検証するとともに、今後の同路線整備に伴う将来交通流動の変化と問題点を抽出し、その問題点解消のための国道357号沿線及び周辺地域における幹線道路網整備のあり方を検討。 ② 新湘南バイパス「茅ヶ崎西IC～茅ヶ崎海岸IC」開通に伴う交通流動変化及び整備効果の解析。 その結果をプレス発表。
H7～H8	千葉市	交差点改良基礎調査	千葉市内の主要交差点149ヶ所のうち渋滞等で問題となっている34ヶ所を抽出。 その交差点交通の実態調査を行うとともに、その結果から渋滞要因を解析して各交差点の評価を行い、そのうちの重要交差点について改良計画を策定。 H11年度からは緊急性と事業効果の高い交差点の基本設計を実施。
H11	千葉市	椿森交差点改良基本計画	H7～8年度で検討した交差点のうち、渋滞が著しく早急に対策が必要な交差点のひとつとして椿森交差点の改良計画を実施した。 鉄道が近接して構造及び用地制約下にある当該交差点の複数改良計画を立案し、交差点交通流動シミュレーションにより改良効果の予測と評価を行って計画を策定した。
H7～H9	神奈川県藤沢土木事務所	街路整備工事	整備が急がれている、主要幹線道路横浜藤沢線(4車線)の整備の必要性を、広域交通流動予測と解析によって検証し、その検討結果をビデオに作成して、住民説明に活用。 また、周辺地域における四季を通じた現況交通流動を把握し、ミクロ的にも同路線の整備効果があり、整備の必要性が高いことを検証。
※ H7～H8	(財)千葉県都市整備協会	街路網整備プログラム検討調査	千葉県全体の既定都市計画道路網の整備のあり方について、現況道路網からどのように目標とする計画道路網を整備すべきかを、現況・将来交通量の処理、土地利用形成、大規模開発等との連動、道路ネットワークの形成、さらには財源等の多様な指標から検討して、効果的で実現可能な都市計画道路網の整備プログラムを策定。
H8～H9～H9～H10～H11	千葉市	黒砂地区特定公共施設整備計画 新港横戸町線緑のみちづくり計画 新港横戸町線整備に係わる住民参加方策の検討 新港横戸町線整備に係わる住民参加	幅員20mで都市計画決定されていた新港横戸町線を地域高規格道路として幅員40～50mに拡幅変更されたのを契機として、当該道路によって分断される古くからの集落地である黒砂地区整備のあり方を検討。 上記とあわせて、既成市街地を縦貫する同路線の全線2.6kmにわたって、環境に配慮した道路本体と沿道整備のあり方を検討。 同路線の緑のみちづくりに関連して、道路整備における全国の事例を収集するとともに、今後の整備において住民参加のあり方を検討。 既往の検討結果を基に、沿道住民とともに道路緑化の方策、沿道整備、維持管理方策等について検討して「みどりの道づくり」を実践。
H9	神奈川県藤沢土木事務所	藤沢大磯線交通量予測と解析	都市計画道路藤沢大磯線(w=40m、4車線)の段階整備に応じた将来交通量を予測し、周辺道路網に与える影響を解析して、同路線整備に伴う関連事業及び沿道住民との基礎的協議資料とする。
※ H9～H11	神奈川県平塚土木事務所	湘南新道橋交通量解析	平成10年10月に開通した湘南新道橋(湘南銀河大橋)に係わる周辺交通量調査(①交差点方向別交通量、②バス旅行時間調査、③橋梁部旅行速度調査)を、供用前後で実施し、その交通流動の変化による整備効果を解析。その結果をプレス発表して大きな反響を得た。

3. 渋滞対策・道路整備効果解析等

(2/3) (※印は費用便益分析を行ったもの)

	年度	発注者	業務名	業務概要
※	H11	都市基盤整備公団 千葉地域支社 千葉NT事業本部	千葉北部地区都計道3・1・2号線道路供用開始図書作成他	千葉ニュータウン、印西牧の原駅周辺地区の開発に伴い、平成14年4月に供用開始する道路(3・3・23 草深別所線、3・3・25 別所滝線)の費用便益分析を実施。 周辺地域を含むネットワークでの将来交通量配分に基づき分析。
	H12	東京都 西多摩建設事務所	すいすいプラン交差点道路線形修正設計	東京都の「すいすいプラン」の一環である都道の交差点改良計画である。河川に隣接していることから用地買収に制約があることから、右折レーンの設置に当たって交差点部の車両走行軌跡シミュレーションを行って適切な交差点線形と用地買収用地の確定を行った。
※	H12	座間市 (神奈川県)	座間市道路整備プログラム策定委託業務	市民の道路整備に対する透明性や客観性を高め、道路整備に対する理解を得ることを目的とし、市内の道路機能を明確にしながら、効果的な道路整備計画(道路整備プログラム)を策定した。 都市計画道路整備プログラム策定マニュアル(案)(平成11年3月)に準じて調査を実施。
	H13	千葉市	新港横戸町線交差点流動シミュレーション	地域高規格道路である新港横戸町線の建設に伴う国道14号交差点における交差点処理能力を、1台、1台配分する車両動態シミュレーター(IVM)を用いてシミュレーションを行った。
※	H12 ~ H13	神奈川県 津久井土木事務所	道路改良工事 県単(津久井幹線道路の検討業務)	恒常的な交通渋滞が生じている津久井地域において、首都圏中央連絡道路の整備に対応した地域幹線道路が計画されているが、その整備効果の検証(費用便益分析)を行うとともに、主要交差点における効果的な設計を実施
	H13	逗子市	逗子駅前交差点調査	自動車と歩行者の錯綜によって恒常的な渋滞が生じているJR逗子駅前交差点において、スクランブル歩行者信号の設置の可能性について検討を行い、渋滞対策を提案した。
	H13	千葉県 成田土木事務所	成田市土屋交差点周辺交通渋滞対策調査	成田市内で最も渋滞が著しい国道408号・土屋交差点における渋滞原因の解明と対策を立案した 現況交通流動の把握、シミュレーションによる交通流解析、渋滞原因の特定、段階的整備計画、警察協議等を経て、短期的対策としての交差点改良計画を提案した。 なお、この結果に基づいて平成14年度に交差点設計を実施。
	H13 ~ H15	(財)千葉県まちづくり公社	街路網整備プログラム検討調査	平成7・8年度調査の見直し調査。 県内幹線街路網計画を基に、その整備のあり方、費用対効果等の整備効果を評価指標とした整備プログラムを検討した。
※	H13 ~ H15	厚木市 (神奈川県)	厚木市都市計画道路再検討調査	H10年のパーソントリップ調査に基づく将来交通需要に対応した、都市計画道路網の再検討調査であり、費用対効果などの整備効果を評価指標とした整備優先性を検討した。
※	H15	千葉県 成田土木事務所	県単交通安全対策委託(交差点改良効果調査)	平成13年度調査に基づき土屋交差点を改良した結果、走行速度は5km/hから24km/hに、交通処理能力は容量比で1.6倍、整備効果は15億円/年(整備費用の約21倍)となった。 この取り組みを広く対外的に公表するため、国道128号・鴨川シーワールド前交差点、(主)市川浦安線・豊浜交差点、(県)白井流山線・富塚交差点での改良実績を含めて調査レポートを作成した。
	H15	静岡市	静岡駅北口周辺交通流解析業務	複雑な交差点形状で、著しい交通混雑が生じているJR静岡駅北口における渋滞要因とその対応策を検討。 当社で開発した1台1台をシミュレートするソフトのIVMを用いて、測地的・個別・ビジュアルに解析した。
※	H15	桶川市 (埼玉県)	桶川市都市計画道路調査	H10年のパーソントリップ調査に基づく将来交通需要に対応した、都市計画道路網の再検討を行うとともに、現在計画されている新規路線の整備効果等を検討した。
	H18	三郷市 (埼玉県)	三郷市・八潮市地域省エネルギービジョン策定等事業経路分析調査	H10年のパーソントリップ調査に基づき現況交通量配分を行って、道路渋滞が引き起こされる三郷駅周辺の道路などの経路を分析し、常磐自動車道側道の整備や車両誘導による効果を、消費燃料やCO2排出量の削減量によって試算した。

3. 渋滞対策・道路整備効果解析等

(3/3) (※印は費用便益分析を行ったもの)

年度	発注者	業務名	業務概要
H16	千葉市	地域高規格道路千葉外環状道路交通量推計業務	地域高規格道路千葉外環状道路が整備されたときの交通量推計を行うとともに主要交差点の解析を行い、千葉外環状道路の位置付けや妥当性の検証を行った。
※ H17	千葉市	地域高規格道路千葉外環状道路費用便益等分析業務	千葉外環状道路の交通機能の評価及び構造要件の見直しに合わせた車線検討のための交通量推計を行い、任意の区間毎の整備効果・整備優先度を算定するとともに、各区間の費用便益比・渋滞損失時間の算出を行った。
H18	千葉市	地域高規格道路千葉中環状道路(塩田区間)交通解析検討業務	自動車現況及び将来OD表をもとに千葉中環状道路塩田区間(塩田町菅田町線)の交通量推計を行い、その結果を用い国道等に接続する主要交差点の解析を行った。
H19	厚木市 (神奈川県)	旭町四丁目交差点渋滞対策検討調査	ボトルネック交差点の渋滞対策を検討するために、交通量調査結果を基礎データに、当社で開発した1台1台をシミュレートするソフトのIVMを用いて、①渋滞の発生要因を解明、②渋滞対策の効果を検討した。
H19	三郷市 (埼玉県)	三郷市・八潮市地域省エネルギービジョン策定等事業道路渋滞対策経路分析調査	平成18年度の継続調査。 経路誘導案内板設置の検討、渋滞緩和道路整備の検討、バス走行性の改善方策の検討を行い、省エネルギービジョンの策定を行った。

5. BRT・連節バス関連

年度	発注者	業務名	業務概要
H15	神奈川中央交通株式会社	新たな公共交通システムの検討調査	藤沢市の北西部地域では、公共交通不便地域が存在し、湘南台駅西口広場におけるバス交通処理機能が不足しているため、中・短期的に実現可能な公共交通システムの導入が必要であった。 このため、「新たな公共交通システム導入検討委員会」（委員長：慶応大学古谷専任講師）で連節バスを基軸とした幹線バスシステムとフィーダーバスによる交通ネットワークにITSの活用を加えた新たな公共交通システムの導入を計画した。
H16	関東運輸局	藤沢西北地域における新しいバス市の導入調査	平成15年度「新たな公共交通システムの検討調査」での提案内容を実現化するために、住民、事業者、行政で構成した「藤沢西北部地域支線バス交通協議会」を発足させ、沿道住民のアンケート調査を実施、フィーダーバスの利用需要の推計、連節バスとフィーダーバスとの効果的な連携方策、PR効果の計測などを検討した。 施策導入の効果が検証され、平成17年3月14日より、慶応大学のバスターミナルと湘南台駅間を結ぶ連節バス、それと連携した西北部地域でのフィーダーバスが運行を開始している。
H16	藤沢市 (神奈川県)	新たな公共交通システム調査業務	連節バスの導入に際し、走行予定となっている湘南台から慶応大学の区間を対象として、連節バスの走行軌跡を路上に描くための軌跡座標データの作成、「乗降時間の短縮」、「所要時間の短縮」、「PTPSによる時間短縮効果」、「利用者数の変化」などの連節バス等の導入効果を検証するための方策の検討、連節バス導入前の実態調査を行った。
H17	厚木市 (神奈川県)	連節バス導入調査	厚木駅から厚木アクストへの通勤対応として、厚木バスセンターからアクストを結ぶ連節バスの導入を検討した。 連節バスの軌跡の検討に当たっては、シミュレーション結果と実際の運行軌跡を比較しながら、バス停設置の実現性を検討した。 本調査の計画内容により、平成20年2月より運行が開始された。
H17 ～ H18	厚木市 (神奈川県)	本厚木駅南口地区軌跡図作成	本厚木駅南口地区に検討されているバスターミナル等の計画に関する基礎資料として、当社で開発された車両軌跡検討システムを用いて、当施設での利用が想定されている連節バスの車両の軌跡図の作成を行った。 平成18年度には、バスターミナル整備計画においてバスバースの配置変更がなされたため、再度車両軌跡図の作成を行った。
H19	国土交通省 中部運輸局、 岐阜乗合自動車 株式会社	岐阜市における連節バス導入軌跡検討調査	平成19年度の「岐阜バス交通ネットワーク調査」において、8幹線のひとつとして位置づけられた忠節方面について、JR岐阜バスターミナル及び岐阜大学病院をトランジットセンターとして、両拠点間に連節バスを導入することとなった。 本調査では、利用者が多い岐阜大学における連節バス導入の可能性について、バス走行軌跡図を作成することにより検証を行った。
H20	名鉄バス株式会社	連節バス導入に関する軌跡検討業務	愛知県刈谷市において、愛知教育大学線の輸送特性に応じた新たなバス運行システムの導入に併せた大学・沿線企業等との連携による公共交通への転換方策を検討するとともに、愛知教育大学線を軸とした環境負荷の低い交通体系の構築を目指すため、導入システムとして検討されている連節バスの走行軌跡を作成し、検証・評価を行った。
H20	町田市 (東京都)	路線バス対策調査業務委託	幹線道路の交通混雑、路線バス系統数の多さ・複雑さといった問題に対応するための公共交通施策の一貫として、連節バスの導入にあたっての問題、課題を整理し、連節バス導入の可能性を検証するとともに、導入空間や走行空間の検証を行った。
H21	広島電鉄株式会社	連節バス走行軌跡検討調査業務	広島電鉄管内で連節バスの導入が検討されており、そのうち横川駅前広場等において連節バスの走行軌跡図を作成し、バス停への進入（停車）・離別（発車）等の可能性を検証・評価を行った。
H21	町田市 (東京都)	連節バス導入計画策定調査業務委託	平成20年度調査における対象路線バス系統において実態調査を行い、連節バス必要性の定量的整理、運行計画基礎データの作成を行った。

4. バス交通・コミュニティバス関連・地域公共交通会議・地域公共交通連携計画等

(1 / 4)

年度	発注者	業務名	業務概要
H10	仙台市交通局 (宮城県)	平成10年度バス乗客実態調査	仙台市交通局のバス事業計画策定・バス活性化施策の策定などの基礎資料するため、バス利用の実態を把握。 平成10年6月2日(火)、3日(水)、4日(木)の3日間、始発から終発までの時間帯を対象とし、バス停留所の乗降客人員及び停留所間区間通過人員(OD)、乗車券種別利用状況、乗継利用状況、停留所発時刻及び終点着時刻を調査した。
H12	岐阜市 (岐阜県)	下芥見支線バス実証実験業務	今後の急激な高齢化によって生活の足として新たなバス交通が求められる大規模開発団地に対し、既存の軌道(美濃町線)を公共交通の幹線として、駅と団地を結ぶ支線バスの実験(約90日間)を実施。 朝夕の通勤通学の足の確保、昼間の高齢者需要への対応など、地域の特性に応じた交通計画を検討した。
H12 ～ H13	東大和市 (東京都)	東大和市コミュニティバス導入調査	市域の外周部に鉄道駅が配置された東大和市において、市民の日常の足となるコミュニティバス導入計画を立案した。 【平成12年度：基本計画の策定】 市民アンケート調査(7,404世帯、17,462人)による需要パターンと乗り換え可能性の把握、コミュニティバスのルートの想定(複数案)、コミュニティバス導入に関する基本的な事項の整理を実施。 【平成13年度：事業計画の作成】 バス会社、警察、道路管理者、市による検討組織を設立、事業計画を作成(ルート、バス停、交通規制など)。 【平成14年度：導入後】 導入後の利用者数は、平成13年度で推計した利用者数の約9割で、推計精度が高かったことが検証されている。
H13 ～ H15	上野市 (三重県)	平成13年度・14年度地域交通体系調査 平成15年度コミュニティバス実証実験運行事業評価業務	平成13年度・14年度に、上野市においてバス交通が果たす役割、地域特性や市民意向などを把握して、効果的かつ効率的な運行形態のバス交通計画を策定。 平成15年度では、コミュニティバスの実証実験を行い、運行事業評価を通じて、地域に持続可能な交通手段としてバス交通が定着するための検討を実施した。
H14	大和市 (神奈川県)	平成14年度コミュニティバス実験運行調査	大和市はコミュニティバス導入に向けて、平成12年度に公共交通施策調査、13年度にコミュニティバス導入調査を実施し、平成14年度10月より実験運行を開始した。 実験運行に伴い、利用者数の推移、バス停別乗降調査、利用者OD調査、アンケート調査(利用者637人、沿道住民730人)、バス停通過時刻調査を実施、コンセプトに対する分析評価を通じて、本格運行に向けての問題・課題の整理し、運行計画案を作成した。 平成13年度調査の委員長であった横浜国立大学・中村文彦助教授に14年度調査結果を報告、調査内容をとりまとめて交通工学研究会に論文発表。
H14	亀山市 (三重県)	市内実験バス調査業務	市内の交通空白地域における身近な交通手段の必要性などを検討するため、バス3路線の実験運行を実施し、同時に乗降調査や平均乗車密度調査などを行った。 バス路線は、亀山駅及び医療・総合保健福祉センターとJR3駅(亀山、井田川、下庄)での接続をできる限り配慮して運行。
H14 ～ H15	鎌倉市 (神奈川県)	平成14年度・15年度地区交通計画調査	鎌倉市は、平成7年度から12年度までの鎌倉地域地区交通計画研究会(会長：東京商船大学・高橋洋二、副会長：埼玉大学・久保田尚)を引き継いで、14年度に鎌倉市交通政策研究会(会長：慶応義塾大学・日端康雄)を発足させ、地区交通計画に加え、全市的な交通マスタープランとオムニバスタウン計画を検討する体制を整えた。 2カ年の間で、乗合タクシー(超小型バス)に関する市民アンケート調査(鎌倉地域500人)を実施し、乗り継ぎシステムの強化を軸とする中期計画を策定した。

4. バス交通・コミュニティバス関連・地域公共交通会議・地域公共交通連携計画等

(2/4)

年度	発注者	業務名	業務概要
H14 ～ H15	多摩市 (東京都)	多摩市交通マスター プラン策定業務	<p>多摩市域の約 7 割を占める多摩ニュータウンは、歩道と車道が分離され、交通安全に非常に優れている一方、バス停まで階段を利用しなければならないことが、特に高齢者のバス利用を不便なものにしつつあった。</p> <p>また、環境負荷の軽減に配慮した交通体系の構築が必要であり、その対応に向け、都市交通のあり方をマスタープランとして、委員会(委員長: 東京都立大学・秋山哲男)で検討を進めた。</p> <p>多摩市交通マスタープランとしては、上記したような課題を踏まえバス交通施策を重点施策として、バス利用のニーズに応じて次の様な基本方針を位置づけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通勤通学者に対しては、駅等までのアクセシビリティの強化を図るための路線バス網の再編、折返し場(旧都市公団の用地)の持続性の確保、バス停付近への駐輪場の設置など ・高齢者等に対しては、体への負担を軽減させるために、ニュータウンの一般車の駐車場が居住地に近接して設置されていること(階段を使わずに行けること)に着目し、この駐車場を結ぶ乗合タクシー等を含めた新たな交通機関の導入の検討、バス停での待機環境の向上など
H15	厚木市 (神奈川県)	厚木市生活の足確保 事業調査	<p>既存の路線バスを質の高い運行とすることを目指し、課題の整理や解決方策を検討するために、市民アンケート調査(8,300世帯、17,325人)と路線バス走行速度等実態調査を実施し、路線バス交通問題等検討調査検討委員会(会長: 横浜国立大学・中村文彦)で検討を進めた。</p> <p>バス交通を『都市の機能を支える公共的な役割を将来に渡って担っていく重要な交通機関』として位置づけ、「バスの定時性の確保・速達性の向上」、「バスの運行情報の提供」、「バスの利用のしやすさの向上」を3つの軸として短期的なバス交通施策(行政、バス事業者)を策定した。</p>
H15	三郷市 (埼玉県)	三郷駅周辺の安全で 円滑な交通環境づくり 検討調査	<p>三郷市は、路線バスを充実させることに成功しており、平成17年度秋季のつくばエクスプレス開業に向けて、市域中央部に位置する三郷中央駅に対してバス交通を再編する計画を進めている。</p> <p>JR三郷駅では、北側と南側でバスの起終点が分離されているが、北側の循環バスを三郷中央駅に対して運行させる施策を検討。</p> <p>3つの施策を立案し、車両1台単位のシミュレーションにより周辺道路への影響評価を行って、最も現実的な施策を位置づけ、駅前広場や道路などの施設整備、交通規制、信号制御、路上駐車対策などを策定した。</p>
H16 ～ 継続中	綾瀬市 (神奈川県)	綾瀬市バス交通網再 編調査	<p>(コミュニティバス)</p> <p>鉄軌道が配置されていない綾瀬市では、市域中央部でのタウンセンター形成を重点的に推進しており、センターに対する市民の足を確保するために、現在の福祉バスの機能を更新していくことが必要とされていた。将来都市像を支えるとともに、交通不便地域、交通渋滞、交通弱者へのサービスなどに対応するコミュニティバスの導入計画を、市民会議を開催・運営しながら策定した。</p> <p>導入後フォローアップ調査により運行を見直すとともに、本格運行に向けた評価基準を定めた。</p> <p>(路線バス)</p> <p>平成18年度からは、市民会議と地域公共交通検討会議(委員長: 慶応大学・古谷准教授)の2つの会議により、市内のバス網の再編計画(幹線バスの整備)を検討。</p> <p>平成19年度の市民会議では、主にコミュニティバスの利用促進を検討し、瓦版の発行、ルートの点検の実施、商工会との連携を検討。</p> <p>地域公共交通会議では、平成20年度の全市アンケートに向けたプレ調査として、路線バス1路線、市役所バスロータリーでの乗り継ぎに関する利用者アンケート調査を実施し、平成20年調査の必要性を検証した。当社は一連の計画策定・運営をサポートした。</p>

4. バス交通・コミュニティバス関連・地域公共交通会議・地域公共交通連携計画等

(3/4)

年度	発注者	業務名	業務概要
H16 ～ H19	市川市 (千葉県)	市川市コミュニティバス導入検討調査	<p>市内には、公共交通の空白・不便地域が存在し、路線バス利用者が減少しているが、高齢者の移動を支える公共交通の充実や、駅周辺での放置自転車対策などが求められていた。</p> <p>このため、市民の日常的な足を確保するために、バス交通の適切なサービス水準を把握し、コミュニティバス導入事業の具体化に向けた事業計画を策定した。</p> <p>平成17年秋季に沿道住民及び利用者アンケート調査を実施し、コミュニティバス運行に対する評価を行い、実験運行継続の必要性、運行計画の変更内容などを検討・整理した。</p> <p>平成17年10月より北東部・南部の2ルートで実証運行を開始、平成18年7月にルート・便数を見直した結果、利用者は増加したが、年間6千万円の財政投入が必要な状況にあった。このため、市川市は自治会代表による評価委員会を立ち上げ、コミュニティバスの位置づけ、実験運行の継続・本格実施の考え方、継続する場合に検証すべき内容など検討し、提言書としてとりまとめた。当社はアンケート調査の実施・解析や委員会資料の作成を行い、評価委員会のコーディネーター役を担って委員会運営をサポートした。</p> <p>平成17年11月の社会実験の運行から、平成18年度の「コミュニティバス評価委員会」による評価・市民意見の集約を踏まえ、これまでの社会実験によって把握された内容を整理し、千葉県内市町村や類似団体との比較や先進事例の研究を通じて、本格運行への移行について課題と基本的な枠組みを整理した。</p>
H17	柏市 (千葉県)	柏市コミュニティバス運行検討調査	<p>旧沼南町との合併(H.17.3月)、つくばエクスプレス開業(H.17.8月)、高齢社会などへの対応を図るため、全市的な観点からのバス交通網の再編、その一環としてコミュニティバスの導入計画の検討をサポートした。</p> <p>(委員長：横浜国立大学・中村文彦教授)</p> <p>全市より公共交通空白地域・不便地域を抽出、約4,000世帯を対象としたアンケート調査を実施し、一般的な路線バスとの連携を含めてコミュニティバスの計画を検討した。</p>
H17	横浜市 (神奈川県)	栄区・港南区コミュニティバス等検討調査	<p>栄区・港南区にまたがる小山台、日野南6・7丁目地区などにおいて、少子高齢社会に対応した「おでかけサポートバス」の導入を含めた最適なバス計画を検討し、事業採算性を考慮した運行計画の検討をサポートした。平成16年度に実施されたアンケート調査に基づき、地元住民から構成される運行検討委員会、関係機関連絡会議の運営を行った。</p>
H18	横浜市港南区 (神奈川県)	港南区交通ネットワーク調査	<p>路線バスのサービス圏外となっている日野ヶ丘地区を対象とし、既存のタクシー会社の車両と配車システムを活用し、行政財源の補填を前提としない(仮称)タクシーバスの導入可能性を調査した。(横浜国立大学・中村文彦教授の指導を受けている。)</p> <p>また、神奈川中央交通と江ノ電バスの2社によってバスサービスが区分されている小山台・日野南地区と野庭団地周辺地区について、相互乗り入れに関する計画課題を整理した。</p>
H18 ～ H21	習志野市 (千葉県)	習志野市コミュニティバス運行調査	<p>習志野市では平成13年度に市内循環バスを検討し、導入は見送られていたが、今後の超高齢社会に向けてコミュニティバス導入の可能性を検討するため、市は検討委員会(委員長：日本大学・榛澤名誉教授)を立ち上げた。京成電鉄本線を市内移動の東西軸とし、3つの駅からコミュニティバス網を組む計画の可能性を、市民アンケート調査により検討した。実証運行のフォローアップ調査を実施し、事業主体を習志野市からバス事業者に移行させるための運行計画の見直しを検討。当社は一連の計画策定・運営をサポートした。</p>

4. バス交通・コミュニティバス関連・地域公共交通会議・地域公共交通連携計画等

(4/4)

年度	発注者	業務名	業務概要
H19 ～ H20	厚木市	厚木市公共交通に係わる総合体系整備調査	高齢化に伴い地形的に移動の制約を受ける地区の鉄道駅までのアクセス交通問題や、集中する市内就業者に対し、神奈川県下で2番目となる連節バスを平成20年2月に運行させるなど、鉄道駅までのアクセス、イグレスの両方向に課題を抱える厚木市における今後の路線バスを中心とした公共交通網のあり方を検討するとともに、重点課題等を位置づけ、次年度以降の検討方針を策定。 地域公共交通会議を開催し地域公共交通連携計画案を策定した。

6. 交通ミクロシミュレーション関連

(1/2) ※平成14年度以降の実績

年度	発注者 〔目的〕	業務名	業務概要
H15	三郷市 (埼玉県) 〔市内部の意思決定〕	三郷駅周辺の安全で円滑な交通環境づくり検討調査	三郷市は、路線バスを充実させることに成功しており、平成17年度秋季のつくばエクスプレス開業に向けて、市域中央部に位置する三郷中央駅に対してバス交通を再編する計画を進めている。 JR三郷駅では、北側と南側でバスの起終点が分離されているが、北側の循環バスを三郷中央駅に対して運行させる施策を検討。 3つの施策を立案し、車両1台単位のシミュレーションにより周辺道路への影響評価を行って、最も現実的な施策を位置づけ、駅前広場や道路などの施設整備、交通規制、信号制御、路上駐車対策などを策定した。
H15	千葉県 成田土木事務所 〔事業効果のPR〕	県単交通安全対策委託(交差点改良効果調査)	平成13年度調査に基づき土屋交差点を改良した結果、走行速度は5km/hから24km/hに、交通処理能力は容量比で1.6倍、整備効果は15億円/年(整備費用の約21倍)となった。 この取り組みを広く対外的に公表するため、国道128号・鴨川シーワールド前交差点、(主)市川浦安線・豊浜交差点、(県)白井流山線・富塚交差点での改良実績を含めて調査レポートを作成した。
H15	静岡市 〔住民説得〕	静岡駅北口周辺交通流解析業務	JR静岡駅北口における広場改良計画に伴う周辺道路での交通規制に対して商店街から反対を受けていた。既に交通管理者協議までは整っていたが、交通規制の変化に対する商店街の不安があった。そのため、シミュレーションによるビジュアル表現とその効果を検討整理し、動画を中心に説明して理解を得た。
H16	埼玉県本庄県土整備事務所 〔県内部の意思決定〕	道路改良工事(交差点渋滞解消検討業務委託)	国道254号と(主要県道)本庄寄居線および(県道)小前田児玉線、の交差点における渋滞解消施策として、既に国道254号線に計画されていたバイパス案2案について定量的評価を加え、有効性の差が大きく、1案の選択しかないとを証明し、事業化へと進めた。
H16	千葉市 〔市および県内部の意思決定〕	千葉外房有料道路利用促進策検討業務委託	千葉外房有料道路を無料化したときの競合一般道路千葉大網線へ影響を評価し、無料化によって競合一般道路の走行速度が上昇することを示すことを示した。
H17	藤沢市 (神奈川県) 〔市から出店事業者への要望〕	明治地区交通解析調査業務委託	大規模商業施設の出店が及ぼす周辺への影響をシミュレートし、出店による交通渋滞の程度をビジュアルに表現すると共に、その要因を分析し、対応策を出展側に求める際の情報を作成した。
H17	豊田市(愛知県) 〔市内部の意思決定〕	岡崎豊田線に係る道路整備計画策定調査	(都)平戸橋水源線及び(都)梅坪堤線の4車線化により、検討対象エリア内の渋滞長及び平均走行速度がどのように変化するかを定量的に評価した。
H18	東京都南多摩東部建設事務所 〔住民説得、交通管理者協議〕	交差点予備設計その2(南東一すいすい鶴川駅東口)	主要地方道世田谷町田線と一般都道真光寺長津田線が交差する鶴川駅東口交差点における交通渋滞を解消するため、交通流の検討を行った。特に、長津田方面から鶴川駅方向のアクセスについて、新たな左折改良案を考案し、シミュレーションによりその効果を把握した。この計画では、住民から求められていた別の案があったが、走行上危険についてCG(コンピュータ・グラフィックス)で説明し、シミュレーションで把握した効果を説明することにより同意を得て、事業化した。結果はシミュレーションの内容が現実の交通流となっている。
H18	各務原市 (岐阜県) 〔市内部の意思決定〕	都心ルネサンス地区まちづくり交通計画策定調査	“那加メインロード”及び“さくら通り”を内包する都心ルネサンス地区において、まちづくりと一体となった交通計画を立案するため、“さくら通り”において自動車通行を制限した場合及び、那加メインロードの路肩幅員を縮小した場合(以下、「検証案」とする)の交通流動シミュレーションを実施し、ピーク時間帯における交通処理の可能性を検証した。結果として路肩縮小の際の駐車車両の影響がすこぶる大きく、有効な途上駐車対策無しに路肩の縮小が困難であることを把握した。

6. 交通ミクロシミュレーション関連

(2/2) ※平成14年度以降の実績

年度	発注者 〔目的〕	業務名	業務概要
H18	(社)日本交通計画協会(国土交通省) 〔踏切信号化の効果測定〕	踏切高度化システム導入調査	都市交通における踏切信号化の効果を測定するために、実態調査から踏み切り車両の一旦停止時間に関する乱数モデルを抽出し、これをIVMに組み込んで分析し、踏切での渋滞長300mは、信号交差点における1Kmの渋滞と同等の時間損失を通行車両に与えるという結論を得た。
H18	岡崎市(愛知県) 〔住民説得〕	東岡崎駅駅前広場等整備策定業務	「東岡崎駅交通結節点整備検討会」において、新設道路や駅前広場の整備を行った場合の交通流動・処理について一般市民に説明することが求められているため、当該地区の交通計画の妥当性について交通シミュレーションにより検証した。
H18	鶴岡市(山形県)	シビックコア地区交通アセスメント調査業務委託	鶴岡市街地において計画されている「シビックコア地区計画」に基づく第2合同庁舎等の施設整備を行うことにより、計画区域周辺の道路などに与える影響を事前に評価することを目的に実施した。将来交通シミュレーションに当たっては、公共施設沿道のコミュニティ道路化、一方通行化など、身近なコミュニティの形成や歩行者ネットワークとの連携を想定した交通規制案を合わせて検証した。また、地元警察との交通協議など、本シミュレーション結果を用いて説明を行い、具体の道路計画(設計)に反映した。
H19	豊田市(愛知県) 〔市内部の意思決定〕	トヨタ水源線他沿道周辺地区整備事業化検討調査	トヨタ本社周辺における交通問題の解消に向けた道路整備計画(案)の効果を、交通流動シミュレーションにより検証した。シミュレーションの結果これまで明らかとなっていなかった問題がクローズアップされ、道路網計画そのものに調整が加えられた。
H19	千葉市 〔道路の設計要件の決定〕	地域高規格道路千葉中環状道路(穴川区間)事業化検討業務	現在整備中である地域高規格道路千葉中環状道路の新港横戸線から穴川ICまでの一般国道126号(補助国道、一部市道を含む)区間の交通流の円滑化を図るための施策立案を行った。シミュレーションにより、通常では気づきにくい混雑の原因が明確にでき、そのために必要な改良計画を道路敷内で立案することができ、事業化へと進んだ。
H19	埼玉県飯能県土整備事務所 〔住民説得、道路の設計要件の確認〕	地方特定道路(改築)整備工事(整備効果調査)	主要地方道川越坂戸毛呂山線バイパスの完成後の変化を予測し、その整備効果を測定した。本件についてはバイパス建設により、現在混雑を呈している交差点の混雑悪化が住民より指摘されていて、その指摘に対する対応についての説明が求められていた。シミュレーションの結果、交通流の変化が視覚的に説明でき、懸念された問題は生じず、やや好転することが予測された。同時に交通流の変化に対応してさらに渋滞緩和の方策の見直しも立ち、前向きな整備課題の設定を行った。
H20	豊田市(愛知県) 〔計画の効果確認〕	トヨタ水源線他沿道周辺地区整備事業化検討調査(2)	変更された道路整備計画案に関する効果確認を行った。
H20	平塚市(神奈川県) 〔市内部の意思決定および交通管理者協議〕	平塚市新庁舎建設に伴う交通解析業務	新庁舎建設が与える周辺交通流に対する影響を検討し、駐車場配置等の設計条件を整理すると共に、交通管理者との協議資料とする(現在進行中)。
H21	岡崎市(愛知県) 〔市内部の意思決定および交通管理者協議〕	交差点渋滞対策調査業務	市内で慢性的な渋滞が発生しているとされる交差点等について、渋滞の軽減を図ることを目的として、道路管理者及び岡崎警察署と連携を図りながら、渋滞に対する速効対策や抜本対策など実行可能な対策案の検討を行う(現在進行中)。

7. 交通社会実験

年度	発注者	業務名	業務概要
H3～ H6	鎌倉市 (神奈川県)	鎌倉市交通マスタープラン	S61～S63 年度に策定した、都市計画道路再検討結果を基に、市内の平日・休日交通実態調査による市内交通の実態を把握した上で、抜本的な道路網整備が困難な鎌倉市の交通体系のあり方を、旧鎌倉地域の保全の観点から計画した。
H4～ H6		鎌倉市駐車場整備計画策定	上記交通マスタープランと整合させるように、特に観光交通が集中する旧鎌倉地域における自動車交通の集中を抑制する観点から、同地域における駐車場整備の抑制と周辺地域におけるプリング駐車場整備の整備を提案。
H7～ H11		鎌倉地域交通計画策定と社会実験	鎌倉地域における交通環境改善のための短期施策を検討するために、市民を中心とした「鎌倉地域交通研究会」（会長：当時の東京商船大学：高橋洋二教授、副会長：埼玉大学・久保田尚助教授）を発足し、そこでの検討結果を「市民宣言（案）」として市長に提言しH8年度より市民参加で交通社会実験を開始。（H8年度七ヶ浜パーク・アンド・ライド実験、H10年度公共交通転換実験、H11年度総合施策の5つの交通実験）
H13 ～ H17			H12年度に一部施策（4つの施策）を実施に移行し、H14年度より新研究会（会長：慶應義塾大学・日端教授）を発足。H15年度に情報提供による交通抑制効果を検証する社会実験を実施。 H16年度とH17年度は、世界遺産登録との関連も踏まえながら、今後の地区交通計画の目標及び進め方を検討。 ※1）七里ガ浜パーク&レールライドを記述した論文により、鎌倉市・鎌倉地域交通計画研究会の取り組みが評価され、「交通工学研究会第1回技術奨励賞」を受賞。 ※2）さらに、これまでの活動に対して「平成13年度第23回国際交通安全学会賞」を受賞。
H8～ H9	(財)三重県都市整備協会 (三重県)	中勢地域TDM検討業務	渋滞が著しい津市を中心とした三重県の中勢地域における渋滞対策を検討するとともに、その一つの手法としての時差出勤を民間企業及び官公庁の協力によって社会実験を行い、その効果と課題を検討し、今後の施策実施の参考とした。
H10 ～	(社)日本交通計画協会 (建設省岐阜国道、岐阜県、岐阜市)	岐阜市交通実験	岐阜市の市街地は長良川、木曽川に囲まれ、自動車利用が多いことから、通勤時間帯には河川断面を中心とした著しい渋滞が生じている。 このため、長良川渡河区間で市内流入レーン2車線の内1車線をバス専用レーンとして、マイカー通勤からバス通勤への転換の社会実験を行い、渋滞対策と都市環境の改善の検討資料とする。
H14	静岡市	静岡市交通実証実験	バス走行環境の改善、渋滞緩和のためにバスレーン、パークアンドバスライドの実証実験を行った。 ・バスレーン：県道井川湖御幸線の籠上交差点～江川交差点の約3.0km及び市道御幸鷹匠町2号線の伝馬町交差点～国道1号までの約200m（H14年11月18日～22日の5日間） ・パークアンドバスライド バスレーン区間の上流地に2箇所の臨時駐車場を設置（それぞれ100台の駐車場）して自家用車からバスに乗り換える（平成14年11月11日～22日の10日間）

8. 省エネルギー・CO2削減対策関連

年度	発注者	業務名	業務概要
H19	流山市 (千葉県)	流山市・柏市における省エネルギービジョン策定調査	流山市・柏市地域における環境的に持続可能な交通環境を創出し、省エネルギー化を図っていくため、平成17年度・18年度に継続して同様の事業評価を行うとともに、2ヵ年の調査結果を踏まえながら、平成19年度以降においてCO2排出量やエネルギー消費量を削減する有効かつ具体的な方策を検討した。

